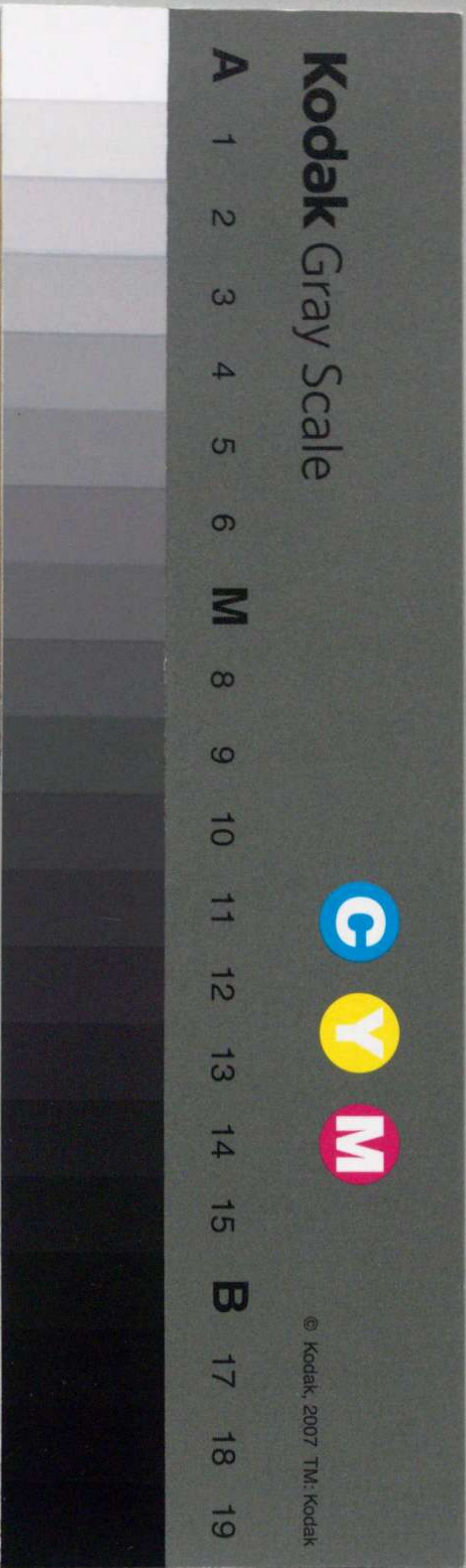


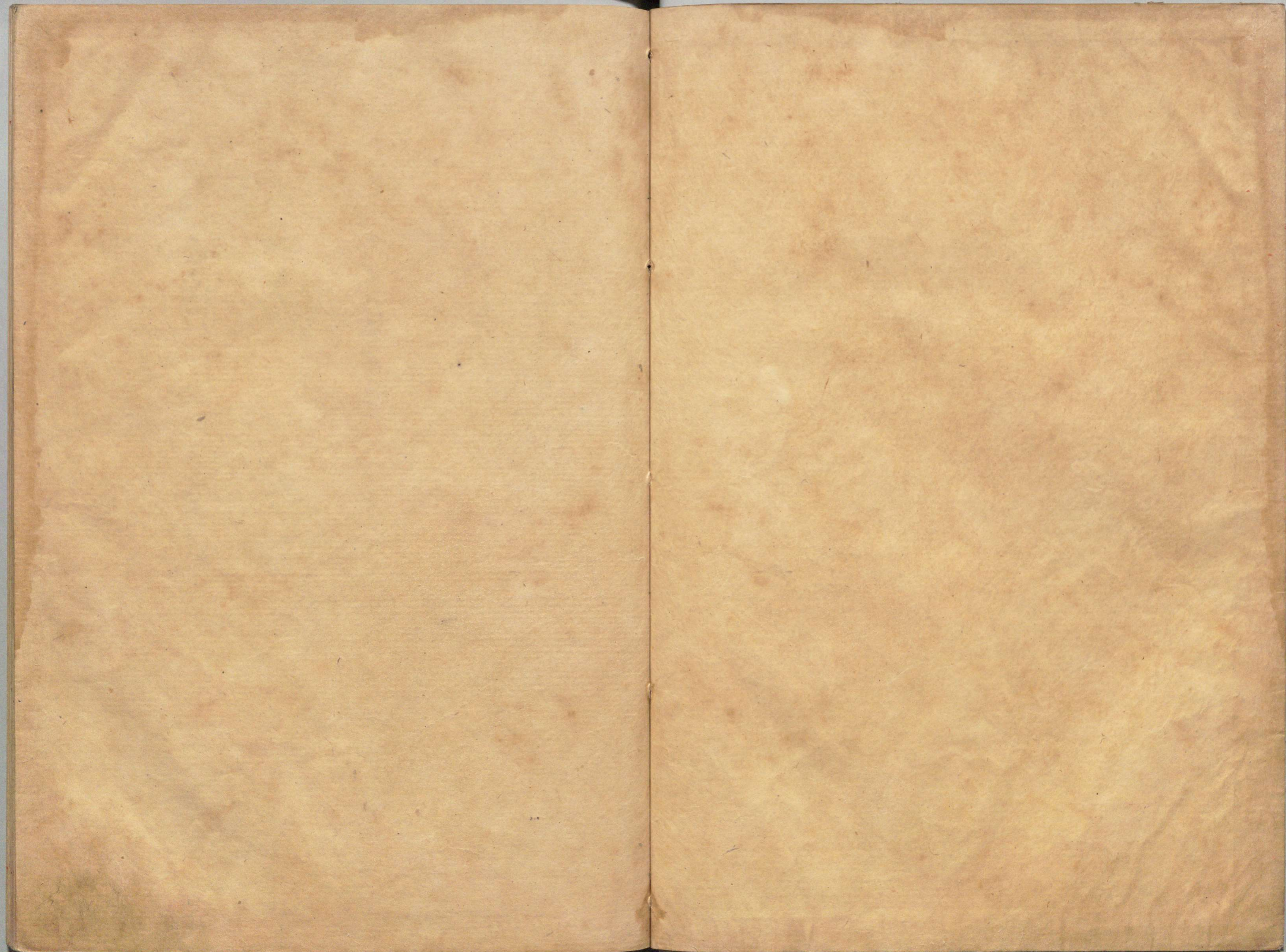
寛永諸家譜

醫者 小兒科
八卷之内

182

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (180)
函號	特 76 ¹⁸² 1





兼房

長瀬院

如成

右田源系

元徳

甫房

恭彦

寛永法皇系尚侍

宇多源氏

右田

宇多天皇十代乃孫侍、本右田六郎
嚴秀九代乃後胤なる

浅草文庫

徳彦

右乃記云、右田一任と徳彦一
しりし、女は海西諸島より一

累世賢るいせけんとくく業しごとく
義海ぎうとくく勝定院しょうていゐん義持ぎもちとくく
麻苑院まゑんゐん

宗林そうりん

慈照院じしょうゐん義政ぎせいとくく

宗忠そうちゆう

淨林じやうりん

宗植そうげ

之安このやす

宗可そうか

幻也げんや

周二

八十一歳に死す

友佐

宗活

機庵と号す

法橋

天正十九年五月六日洛陽に生る

十五歳より龍溪院宗伯寺命院に在り

予はひく醫術とすれは、のり
おとらゝ尚世名醫うり人なり
くすまこれた小児乃醫とたる者
とくたしうまといひく洛乃妙なり
了りゆき庸山禪師より予はひ
小児乃醫とすれひくもるはは
ら庸山小児の醫術とすつ時
鳴う乃子渭竹よりあひつる子とす
元和二年越後乃わねる七歳の

少之府刺しうきふ法醫とまじりて
あれと瘰癧れも敷月よとよひく
るしあす時り
台徳院殿板倉伴智吉勝まじり命
系海乃見醫をくくしれと治せしめ
しきふくよとひく宗活う此撰り
あさり越あよゆさ業と執りく
敷貼りて平漫ありあれら越あよ
渡来しる事久し

同七年元長江府系勅れ
宗活六れよとよひ五百石乃地と領
寛永二年壬午春江寺利隆六歳
しく久咳り痢病と道する
法醫六れと瘰癧れといしも
たし父大炊法利勝宗活小見
名醫術よくしと同く治療と
しし時一方とあふくくから
あしを治す事久し

しづめて

名徳院殿より洋酒一斗をてまつる

同二年 仙洞才二此交に右様此

宗活とありつねより中く武内

洛よりつらて浄業と敏とあり

法橋と叙と

同十四日 子代姫君浄誕生

内宗活とあり浄業と敏とあり

つらて及申と伺候と

同十八年八月

竹子代君御誕生此時めつねと及申り

浄一浄業と敏と

同年九月六日 杉平浄三吉信徳光長

了奉書をつらと宗活とあり

竹子代君よりつねとありの武列

悪領の内西塚村よりとひく五百石の

地とあり

同年十二月廿日 及申とあり

俄^い中^{ちゆう}風^{ふう}乃^の病^{びやう}り
ら^られ^れく^く家^かり^り海^{かい}り
法^{ほふ}醫^い六^むれ^れを^を療^{りょう}治^ちす^すい^いづ^づも^も遂^{つい}り
あ^あり^りな^なり^りて^て日^{にち}二^に十^{じゅう}八^{はち}日^{にち}死^しす
一^{いち}一^{いち}一^{いち}

宗^{そう}仙^{せん}

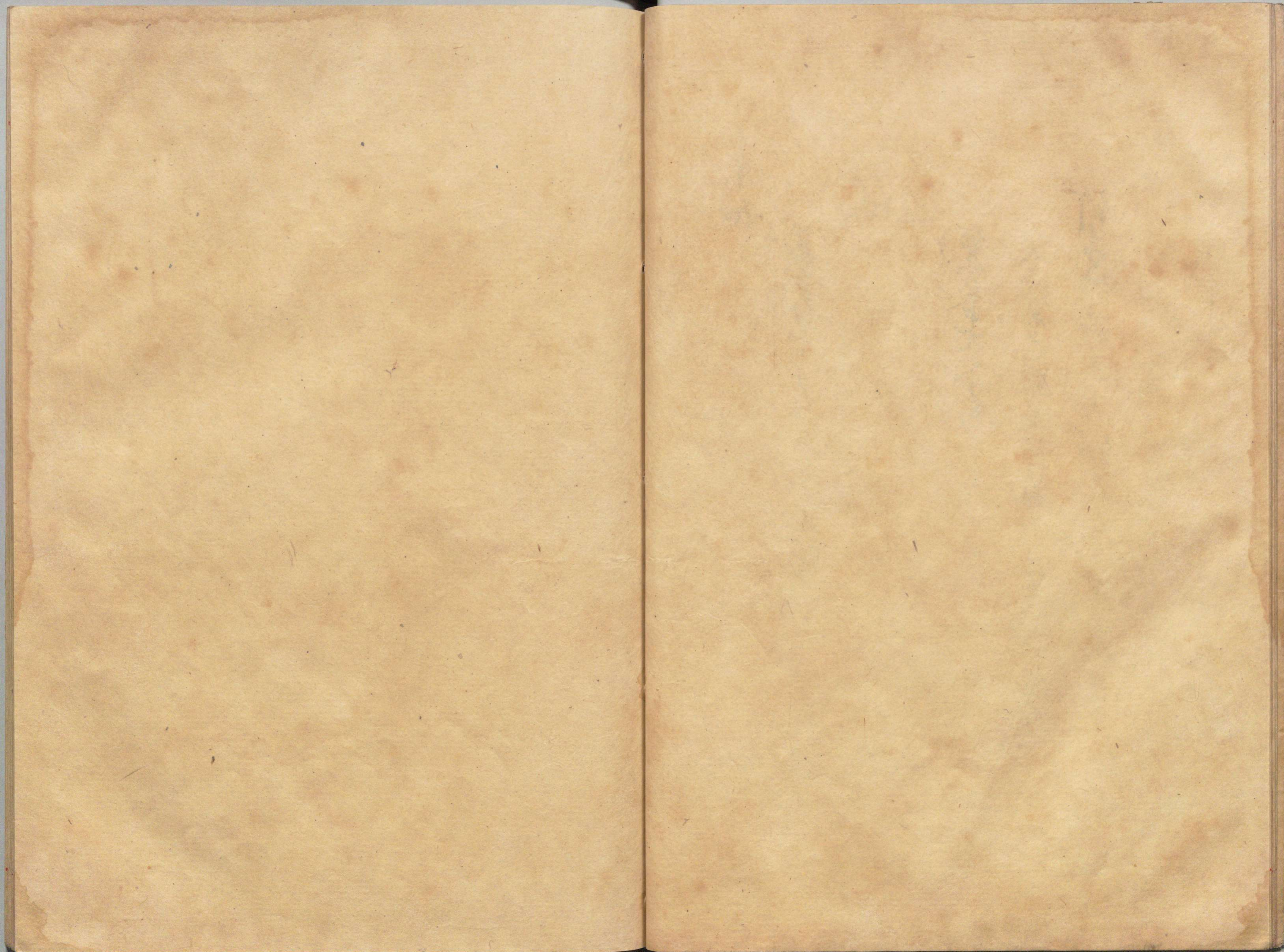
松^{しょう}庵^{あん}と^と号^{ごう}と
之^{これ}十^{じゅう}歳^{さい}少^{しょう}く^く死^しす

宗^{そう}和^わ

菴^{あん}と^と号^{ごう}と
法^{ほふ}橋^{けう}

宗^{そう}以^い

策^{さく}菴^{あん}と^と号^{ごう}と
父^{ちち}乃^の遺^い跡^{せき}五^ご百^{ひゃく}石^{せき}と^と号^{ごう}と
竹^{たけ}子^こ代^{だい}君^{きみ}り^りは^はく^くく^くす^する



友原姓
人見

家傳り友原の姓なりと云ふは
先武列人見郷と傳るゆへり
保号と云ふ弘治年中平比古時
滅亡のつちを領地とすは丹波
國高瀬郷出雲里より高瀬と云ふ
は人見東條吉原尉といふ者あり

親おややうう屋やくく浪なみ大おほししとと丹波國たんぱのくになり
 ととくく花はなとと飲のみとと道徳どうとくよよりりて
 食け色しきををくくふふううのの子こ
 道みちかかががらら記しりりああらら織お田と信しん長ちやう
 的あて智ちをを考かうととてて丹波たんぱをを略りやくせせ
 一いじじののよよををひひくくうう乃な食け色しきとと
 うう一いちちのの退たいくく浪なみをを流ながししりり
 舟ふねははとと子こ孫まごみみをを醫いととししてて業わざ
 也なり

道徳どうとく

道加どうか

道為どうゐ

友徳ゆうとく

元徳

大藏卿清平

寛永十四年五月

仙洞才この由子

考之文書を恙ある所元徳として療せ

めたすし目と遂く清平金あり

け黄よりく清橋り叙と

同十六年三月十八日

將軍森板倉周防守重宗より命じて

江府りめりしりめ

氏姫君

乃清巻の書を信付られしりく清

書を執と

同十八年八月二日

竹文代君清逸生ありし記は清巻の生れ

しめりし清書を執とふ事しり

清醫師のなるく乃は文中小

侍す

同年九月六日下野國梁田郡為場村

りをいへく五百石の地を領す

同十九日二月八日

竹下氏君山王河社系乃ととさ大藤江津

り叙一とれちら供事と

孝安

法橋

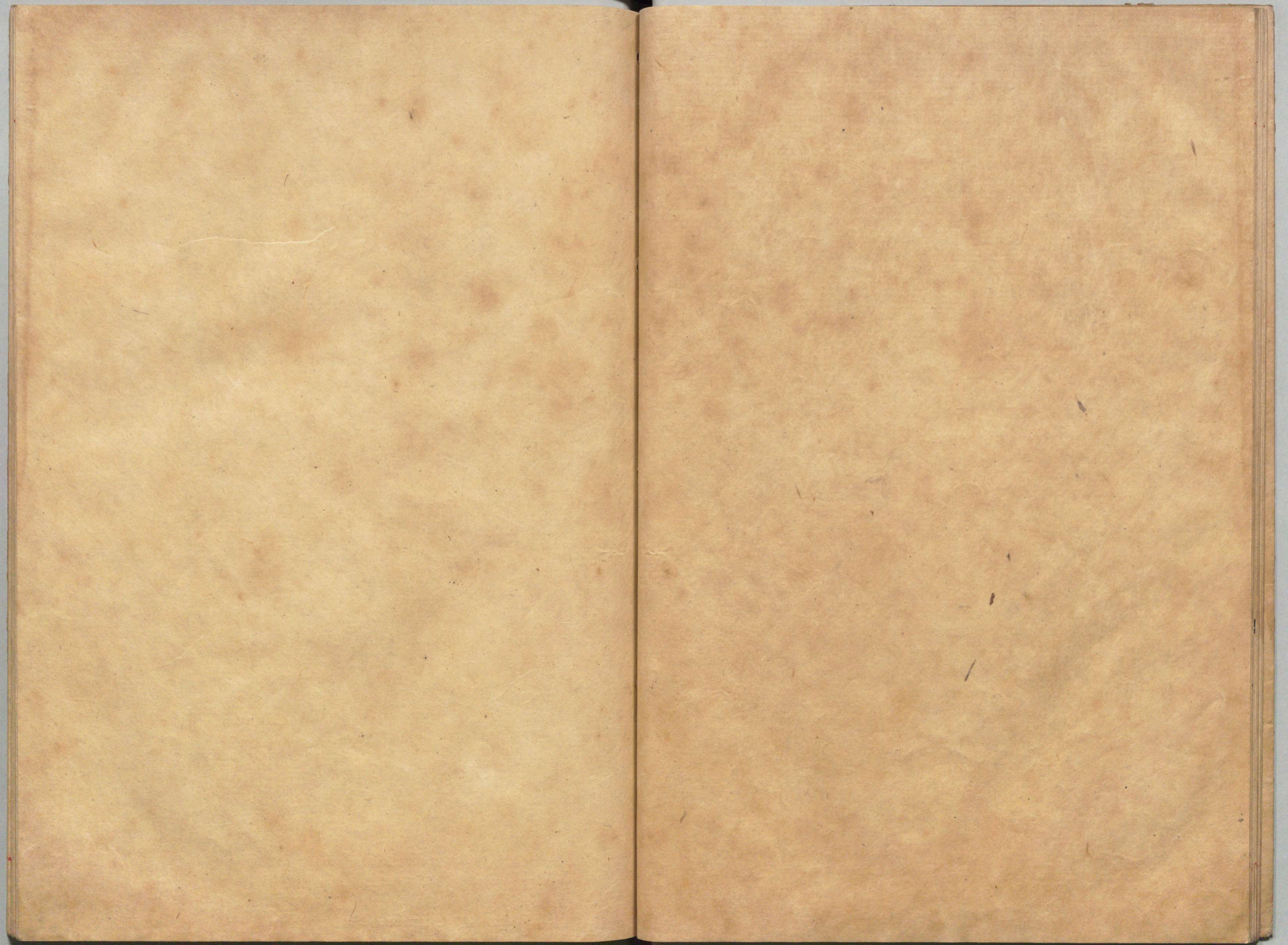
女子

集

又七郎

菊

家乃紋九曜と福矢と相変



安倍姓 あべの
安倍 あべ

良辰 りやちん

仁右衛門尉

善本橋津守り一尉して小和回の城

一居一萬石の地を領す

良長

幼き衆

法名道怡

善本藏亡乃ら豊信秀次ははて
子石の地を領し是將同心之十人と
形を好り忠告をりつふ言後

大権現乃詢命とてつく尾列義重と

はふ

慶長年中

良重

幼き衆

父乃善本と継ぐ尾列義重と
はふ

台徳院殿乃御前をひく的と村

沖感ありあつらふ少ざりし慶長

中へ沖夫筒一と洋領

今よりとひく家保とす

順貞

長徳院と号す

幼少より黒谷養母よりさびて小児

乃醫と申解ぶる乃ら通仙院瑞桂り

とさび大方脈と申解ぶ

寛永十八年十一月は法橋と叙す

同月廿二日

竹下代君乃御石例よし

將軍乃御命と申いふ十二月六日江戸

より泊して

竹下代君此由氣多しういふえまつり

御茶と鉢にて御平儀ありし

御座りて御子百粒ハ本之百俵

と御座りし

竹下代君は御久きえまつり法醫也

御座りし殿中より侍りし

御養生御茶と鉢と

同十九年二月八日

將軍家此鈞命うんめいとつてつて法りん下か叙しよ

某

吉十郎

良通りゆうと

八三郎

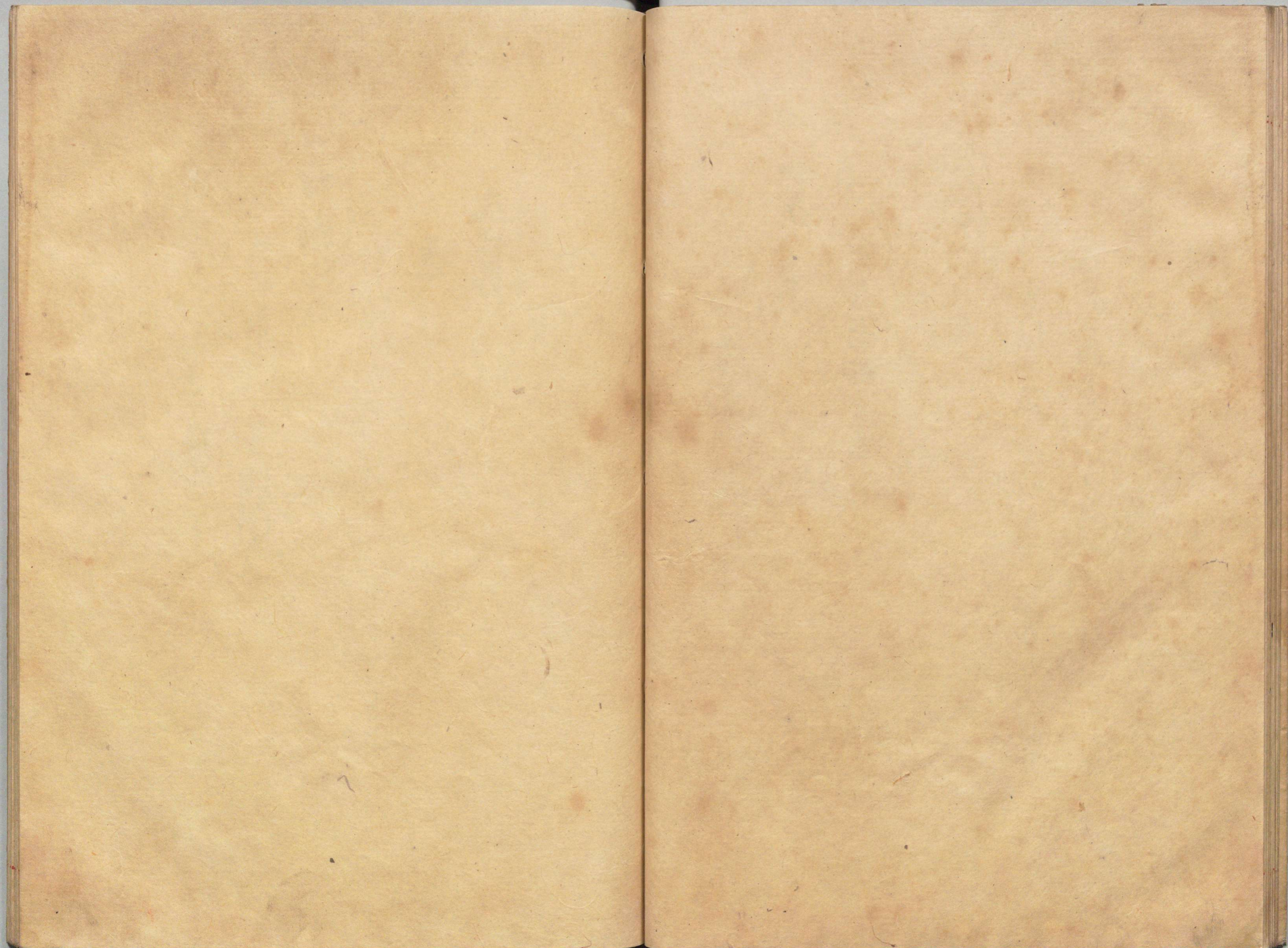
尾川義直おのがわぎなおとつてつて

女子

尾川義直おのがわぎなおとつてつて

玄信げんしん

尾川義直おのがわぎなおとつてつて醫い少せう水すい



● 家後

友忍ともしのぶ
思おも

九郎右衛門 生國備いけん
宇治多連家うじたれんけより

家守くしゅ

源清次 道和と号す

宇都内申納之秀家より行きて

子元乃地と領す

慶長元年之百石此地と加倍

鉄炮同心とあづか

同五年浪人となり湯小居

小見乃醫とす利發して元和

号一とまじくくろ乃術とほむ

六れりしとく法皇子より清

茶と執す

家藏くさう

市助

宇都内秀家より行きて

よむ
あえ

南唐

美を家成か子たる五歳乃時道和
養子とたるして小児乃醫とす

寛永十八年十一月廿二日

將軍家板倉周防守主宗の命して

わし出さうか同十二月廿日江戸より

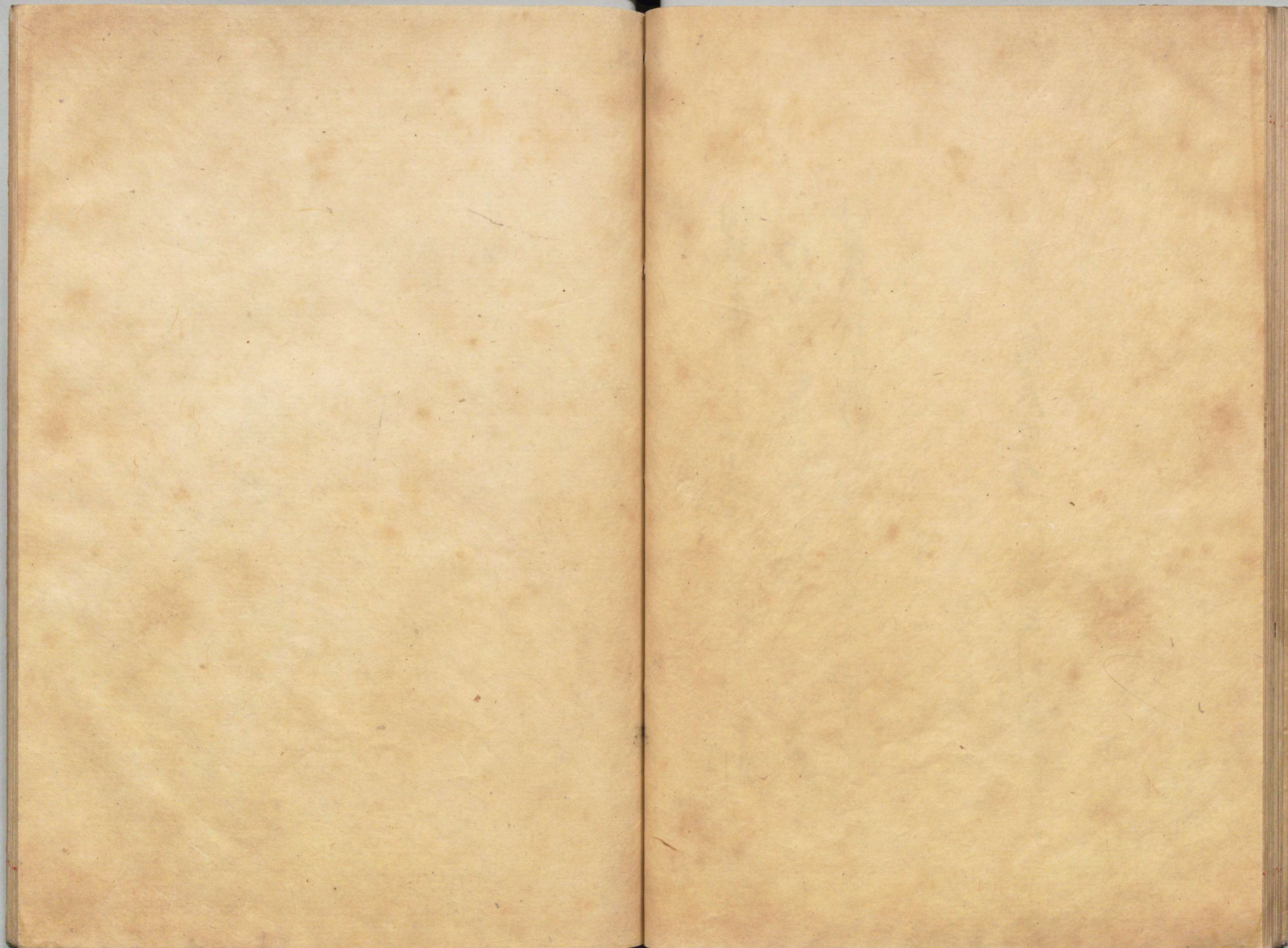
翌日

將軍家より稱揚してその事り別

的命とがうりり

竹下代君より行へる事り

家乃級友巴あつひとに川あ



清和源氏
山田

● 幸正

大権現
清康君

後白河院
廣忠

大権現
清和源氏

三河額田郡山中
山田

正穴

平一席 助右衛門 生國回あ

大権現よりけり之をくまらりて冬列

一向宗一揆乃とて戦場をなひく

あふしく軍切あ甲とて清水大寺が

寺め小傷らるる乃疵股にあ甲をく

行歩自由あす故り致して

置送り居し中しく湯見しを

正勝

平一席 生國回あ

信康よりつた信康より逝去乃ら

大権現よりけり之をくまらりて甲列陣乃

平岩主計次親右が送り居し先

陣より後列を同りしとて首級

と得たり又甲列新府よりひく伏兵

たふしく首級と得たり武田没落のら

徳士と云ふべく甲列乃書とほとじ
長久自合戦乃と云ふ乙列一ありあり
信守とほとじ信守と云ふと云ふ一
先鋒乃将升伴者部少輔忠政
属一と首級と得る中凱還のら
りあ年乃と云ふ甲列
乃書とほとじ信守と云ふ
かうゆらとれども正勝と云ふ
小治と好まざり一と母之國辭と

少さなり忠政が肉と云ふと云ふ
見松平久助とあつてく乙列と云ふ
とありたもと云ふ信秀次
清久大番以とありは五位下と叙
出羽守一と云ふと云ふ石井地を
領と秀六費と云ふのら若田肥と云ふ
利と云ふ一と云ふ
関原合戦乃と云ふ利と云ふ大正と云ふ
城と云ふと云ふ正勝と云ふと云ふ

見
戦四あの中終りし中へ感書と授
再び能成と加倍しくと愈く
六子石と能くうらら年とては
老く嗣子なりうらら故養子正信
一家習とゆつらんくつと
まゝに聖徳正勝加列りてと
病死と

正信

平右馬

生國同家

乃らり刺髪して必成と号と法橋
実祖父と小笠原甚平と名はく列
東諸段の人たる同法新屋よとひて
うらら死と実父もまゝの甚平と名つ
けとこゝ六歳少して孤と力を如習
山田八郎と名なれど家習と
はくつるしと小笠原とありとあり
尚と稱と信康自らは信康と

逝去乃ら

大指現り法之奇くまうり年若身以
繼り属一我場いなきひくあしく
守切あ甲天正十二年信利共回陣
りよひく味方殿小乃ときこ林河り
し一敵境とつく甚年か母夜と
は甚年也一あをせくろ乃款と
うらなげわくさ酒井信右衛門勝軍
監りりくあまをらんく

大指現

大指現り云々之國東法入必乃

年若身以法は属せらる甚年こ

浪人少

正信いけたるうして叔父山田年一節

正勝り屋方なるひくたなり

とひく秀次りつふ秀次薨逝

乃ら正勝正信をのくふあして

取くり拵はす

園會津陣此時生約雅樂頭は清之く
大坂乃城ありあやう乃ら去く
宇治西秀家あり清之くさり
春父正勝前田利長は清之く加列は
河甲年屋うやく光をうりりま
正信とまひの家督をゆつてんと
あはれよちて枝かよいつる聖年
正勝病死して正信うりき流と清之
乃らり故あやうく加列と去忠者之

一は忠告主逝去乃ら浪人と

大坂陣のときなる上野父正信と
あはれ先祖乃末由と云と

大指現あり清之くさるるんとして
冬友あ清陣とつとじろれも正信
あはれ守りて終は家伝とて正信た
遷乃らは友乃のうらと絶小田人の醫
あはれあて江戸府あり頃より年一既り

十餘年じゅうにふた

寛永十八年

竹下氏御誕生のときたけしたのうぢのうぶなまはるまじに出いづれまく

法しよ醫いととにに句くくくかんかんくく管かん申しんれれ

御書と行ごしよとぎやうととじじ

同十九日二月法橋ほりはしと叙ぎよとと

同年九月屋宅やたくと奇きととすす

寺信てらのぶ

如仙ごとん

平右衛門 生國山まがら城じやう
尾列おしり義直ぎちく乃家のけり阿あまま

生國なまが同どう家け

小児せに乃醫のいと業ぎよ小せすす

如之ごとん

生國なまが下げ野の

小児こゝろ乃の醫いとと業わざ抄しやう

家いへ乃の紋いづ一いつ巴ば

友原姓
友原
塙

一ヶ
友

新之助 生國尾張

職田信長 一ヶ尾列大野本を

尾列 稻生 一ヶ小浮野 合戦乃

内軍切あす

永禄二年信長と今川義元合戦乃

少さ首級若干を得たりと申す

甲首一級河守中川八郎右馬尉と

く甲首を信長より献じ目又甲首

一級と得くうらうらと申す

首と物事様におり毛利新助中川

今右馬尉等これと申す

元龜元年江別浅井合戦小をひく

味方引退少さり信長佐内藤助と

して敵となさし敵者これと退將

依り強あやうし手友ら乃事な

関先陣より引せし依りり

ていづく味方小勢あり敵大勢

なるまに敵をくま地形を

け地をうねる廣し小をひく大

敵がうらうらとあやうく

すうらうらと依りけ

うしひきをいしと陣より歌
あひきし首とさる事おろきり
軍と合してゆさうのら清長ま友
とつて宇治志本乃城とて
天正二年長條合戦乃河軍切あり
同日十二月乃清長は何とてしり
あつて原田と称す
同日年大坂一向宗一橋乃中五月
之月難波をひくうら死す

安友

新ら師乃ら公家とあつたじまは同あ
磯田信長はは
天正十二年尾刈長久合戦のとき
比田勝入は属して軍にありのら
者信秀をりはく八百石乃地と
信と秀乃滅亡乃ら浪人なり
慶長五年園尔合戦乃河軍筑後

女子

右方より馬にて首二級と得る事
内一級と甲首たる事乃ら判發して
道閑と号し小児乃醫と稱す

寛永六年正月十六日
七十日

小瀬伊右衛門

友治

久八郎
田中筑後守りはくくみん解乃地と
領と

周原合戦乃とき馬とけしと
領遂さう乃首とわ筑後守りはくくみん
感書とつづきと歌とあり戦く
首級と得る事と堀尾出雲守とあり

く感書をわくふ

頼安 よりマモ

幼忠 しのぢ

仁年安藏をちよけふ

家安 そうあん

泰吉 たいきち

生國筑後 うぶくに

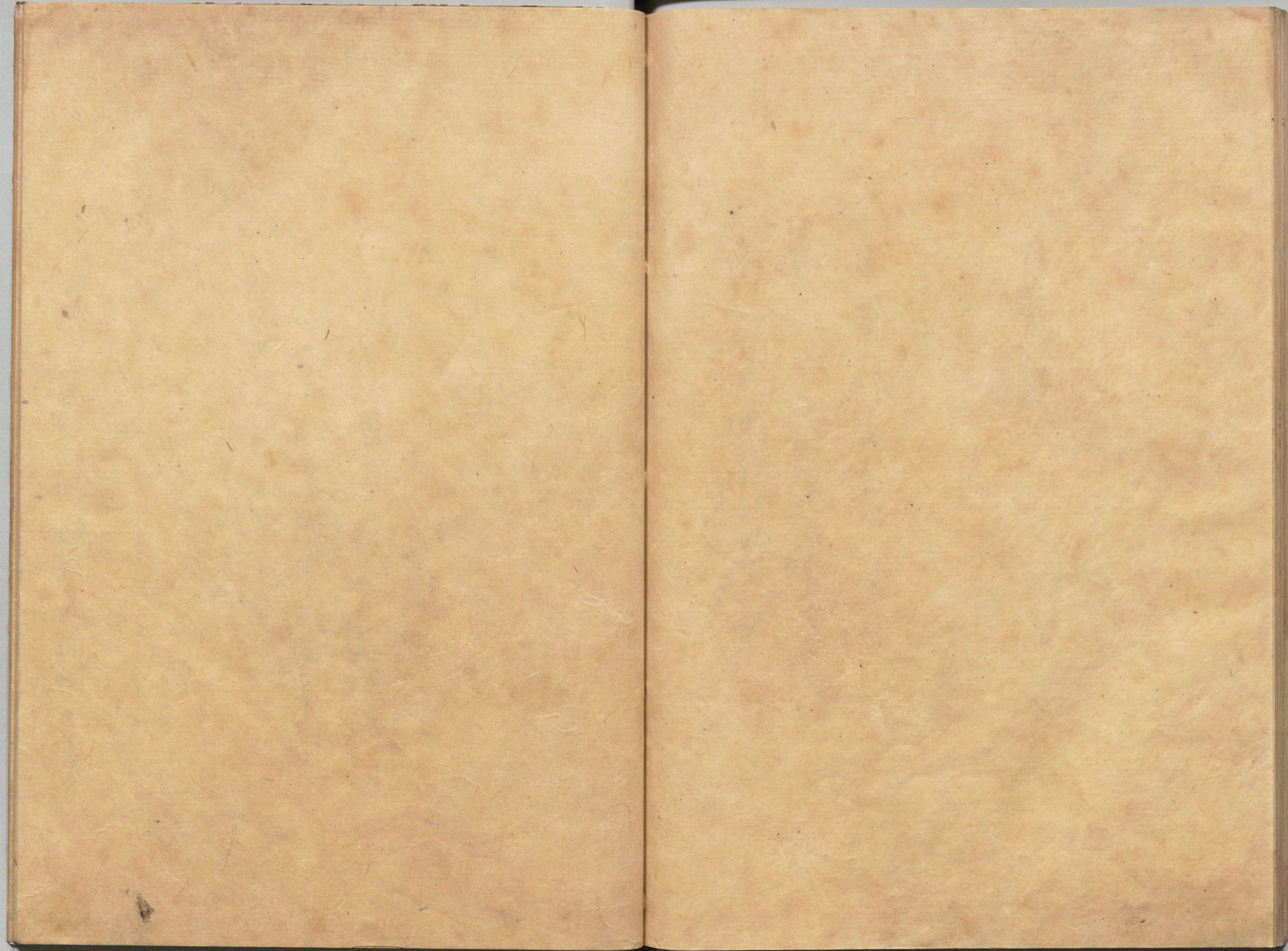
父乃業と継ぐ小児乃醫と成る

寛永三年九月法橋の叙と

同十八年十月廿一日の一出と

竹下代君の流久をきてまらぬ

家乃級凡乃うらふ 卍字



● 宗清 むねきよ

小源 こげん 源 げん 清 きよ 流 りゅう 大田村 おほののむら 出 い

菅原姓 すがはらのな

大田 おほの

家傳 けだん 菅原乃姓 すがはらのな 先祖流 せんぞのりゅう
大田村を以て故 おほのむらをととめて 大田と名 おほのとな
稱 なづ 号 なづ とす

織田信長と信秀の事

宗隆

小源又 飛弾寺に五箇下 生糸尾法
乃ら剃髪して宗善と号す
うづめ丹羽五郎左衛門長秀り
は久米子なる地と領を數度名
我田ありふより秀吉に好むと知
りおされ濃列りをひく一萬石

乃地を移す
朝鮮陣乃とて蔚山乃城よとひく
群と援本勇とてけま一矢庇救
今亦と仰りし
乃ら秀吉列向杵乃城をこたり六万
五子石と領むるのらゆありく
流浪一海陽り函居と

隆海

英他書 生國同あ

孝信秀吉

宗安

源右馬 生國同あ

丹羽長秀

孝信秀吉

孝信秀吉

孝信

宗久

茂右馬 生國同あ

丹羽長秀

孝信秀吉

慶長七年八月十七日

孝信秀吉

しよろ
宗勝

次弟 生ま回あ

若年 中別可考後与右治つふ

長五年 石田之敵叛逆乃少くさ

右治り 乃さび丹後周情由因乃

陣とつせむ

宗勝二十九歳ありて右治が子懸軍

平友治が博とたるもく後府あり

大権規 薨御のら友治り乃さび

江戸に居候と

寛永四年 右治故ありて平治と

及收せら家あきよもく平年よ

乃さび流浪ととりよら小関乃醫

術と嗜よりくあきとなふけあふ

ありて江戸をいく小関乃醫

業とつとめ平年なるひり素子ホ

と春育と

同十四日六月 子代姫君の病癒の時
法醫伎術より破り江戸中の小見
乃醫と申すは婦人乃此の宗勝
めしこころは業と断り速り
法流氣河中十余日ありて半年後
あやしの積よりわく同七月
ゆず家 浪子山 惟子 子物 祐木 と流り
慶河の命とおとあまこと
子代姫君より流るるをまつり目

御塚一候と

同十六日八月 俸年禄と洋館と

同十八年八月

竹久代君御誕生の御時

竹久代君の御氣多しうらむいふまじ

同九月六日 俸年禄と精一

武列 忠成乃ら小見村 小屋村

とひく御地と

勝重

物十部

武列江戸よき

家乃級梅梅内今あつたあて葛の糸

とらる

